

日の入り後の南西の空高くで、金星が強い光を放っています。1月10日には、太陽の東側に離れる角度が最大となる「東方最大離角」を迎えます。高い所にあるため観測しやすく、マイナス4.5等と非常に明るいため、観望の絶好機が到来しています。すぐそばには1.1等に輝く土星もありますが、金星の激しい明るさと比べると何となく見劣りがしてしまいます。南東の空高くには、木星がマイナス2.5等で存在感を示しながら、おうし座の一等星のアルデバラン(0.8等)のそばを西向きに「逆行」しています。少し低い所には、1月12日に「地球最接近」となる赤い火星が、マイナス1.4等で輝いていて今が見頃です。火星は、昨年12月にかに座まで東向きに「順行」した後、方向を変えて西向きに「逆行」してふたご座の一等星のポルックス(1.1等)より西に進んでから2月下旬に再び東向きに「順行」を始めます。このように戸惑(とまど)っているように見えるので、太陽を周るこれらの星たちは「惑星(わくせい)」と呼ばれているのです。

東の空には、**オリオン座やおおいぬ座**などの有名な星座を作る明るい星たちに、今年限定の**木星と火星**という明るい**惑星**が加わって、とても賑やかで華やかです。